

【競技上の注意】

1. 競 技

- (1) 本大会は(公財)日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブックに準拠し、また顧問総会資料の申し合わせに従って、2点先取の団体戦で行う。各マッチは7ゲームで行う。
- (2) プレーヤー、審判とも公認の正しい服装でコートに出場する。ゼッケンは必ず四隅を留める。テニスシューズを着用すること。
- (3) 大会使用球は、男子「赤エム」、女子「KENKO」とする。
- (4) 試合前の練習は1分以内とする。練習終了後はベンチに戻らずに速やかにマッチを開始する。両チームの挨拶終了から1分を目安として、第1対戦のペアの集合となるように対応する。
- (5) 本大会では3位決定戦を行う。

2. 進 行

- (1) 入口側から1コート、奥を4コートとする。ベンチは番号の小さいチームが本部側を使用する。
- (2) 1回戦はプログラムに記載されたコートで行う。それ以降は後で連絡する。
- (3) 1・2回戦は1面、準決勝以降2面展開で行うが、進行により1回戦から2面展開や3面展開で行う場合もある。
- (4) 所定のオーダー票に監督、選手のフルネームを対戦順に記入する。オーダー交換は本部前で行う。
- (5) 対戦のどちらかが初戦の場合には、第3マッチまで行う。以降は2点先取とする。
- (6) 勝者のチームは試合終了後、速やかに採点票を本部へ提出する。

3. 審 判

- (1) 審判を行う際は、審判資格ワッペンを左胸に着用する。コールの声が届かないと思われる場合はサインを伴って判定する。
- (2) 各コート第1試合は相互審判とし、隣り合うコートの対戦の審判を2名ずつ出して行う。
第2試合以降は敗者審判とする。A・BコートとC・Dコートの間に正審が、その反対側に副審と線審が位置する。正審は座って、副審及び線審は立ってジャッジを行う。敗者審判の学校の監督は、該当コートのコート主任として2階席に待機し、審判への助言や本部との連絡等を行う。
- (3) 審判は採点票の各校のオーダーと選手名を確認して対戦を始める。試合終了後は勝敗及びスコアの確認をし、勝利チームに勝者サイン欄に記入させ採点票を渡す。

4. そ の 他

- (1) すべての引率責任者及び外部指導者・部活動指導員は、会場内では必ずIDカードを着用する。団体戦では監督が1名ベンチに入り、指導・助言は監督のみが行うことができる。
監督は、2面展開はコートとコートの間に、3面展開は中央のコートに位置する。ただし、中央のコートが先に終了した場合は、どのコート（監督席）にも移動できるものとする。
- (2) 役員以外の監督と選手のコートへの出入りは四隅の階段を使用する。
- (3) ベンチでの応援は椅子に座って行うこと。2階席からの応援も前2列に座って行うため、空けておくこと。
- (4) 競技の妨げになるため、フラッシュを用いた撮影は禁止。部旗の掲揚は2階席の側面のみとし、下側がアリーナ内に垂れ下がらないように注意する。
- (5) 体育館履きで外へ出たりすることのないよう、上履きと下履きの区別をしっかりとつけること。また、館内では原則右側通行とし、ボールを使った練習はしない。
- (6) 貴重品の管理には十分注意する。またゴミは必ず持ち帰る。
- (7) 水分補給・休養等しっかり取って、体調管理に留意し、また十分な感染症対策を講じる。体調不良者が出た場合は、速やかに本部へ連絡する。